意欲ある担い手の育成と資質向上に向けた取り組み

～若手農業者の資質向上と活動の活性化～

活動年次：令和７年度

後志農業改良普及センター本所

1　課題設定の背景 **********

対象：共和町４Ｈクラブ・共和町新規就農者　12名

共和町４Ｈクラブ(11名)

【背景とこれまでの取り組み】
・メロン、すいか等の園芸品目や水稲、畑作との複合経営が展開
・個々の営農上の課題解決に係る支援
・定期的な勉強会を開催
→クラブ員の主体的な取り組みを支援

ねらい
●青年農業者自身の資質向上
●クラブ活動の活性化

共和町新規就農者（１名）

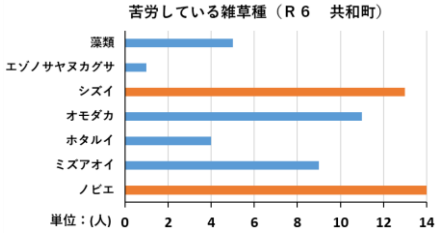
【背景とこれまでの取り組み】
・栽培管理技術向上の意欲が高い
・薬剤防除や施肥設計、土壌改良等を徹底支援
【営農上の最大の課題】
・ほ場の土壌理化学性改善(低pH、堅密土壌)

ねらい
●農業生産技術の向上
●農業者としての資質向上

2　活動の経過 **********

共和町４Ｈクラブ

●資質向上支援(バケツ予察による水稲難防除雑草「シズイ」の効果的防除法)
クラブ員は難防除雑草である「シズイ」の対応に苦慮
→温暖化による発生の早期化に対応できていない？
→シズイの発生速度を把握するため「バケツ予察」を実施



温度ロガーを設置して観察
→積算温度から生育速度を把握して防除対策に活かす！

～バケツ予察の仕組み～
①代かき前に水田土壌をバケツに採取する
②水を張り、水と土壌を混和(代かき)させた後、育苗ハウス内で保温
③雑草発生状況を観察

共和町新規就農者(就農３年目)

●作土が硬い→深根性緑肥で耕盤層を破壊！

●土壌pHが低い→土壌酸度を矯正！

緑肥の作付けや炭カル施用で土壌の物理性や化学性を改善しましょう！

●●様　緑肥（ソルガム：つちたろう）生育・収量調査

は種日	施肥(10a)	生重(kg/10a)	乾物重(kg/10a)	乾物率(%)
8月14日	N4kg	7,448	1,460	19.6%

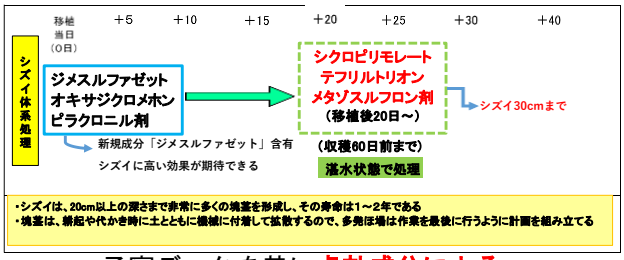
・追肥後の生育はおおむね30cm/週で旺盛に推移した。
・生重量に対して非常に高い乾物重量が確保された。
・少なくとも地下30cm以下への深根性を確認した。

緑肥の生育推移と乾物重の報告資料を提供

3　活動の成果 **********

共和町４Ｈクラブ～シズイの発生を大幅抑制・クラブ活動の活性化～

●バケツ予察の結果「積算温度500℃」で除草剤処理適期（シズイ草丈15㎝）を迎えることがわかった！



予察データを基に**卓効成分による「適期体系処理」**を実施！

難防除雑草「シズイ」の発生を大幅抑制！

●「メンバー全員」が個々の営農上の課題解決に取り組んだ

土壌物理性改善

土壌病害対策

水稲難防除雑草対策

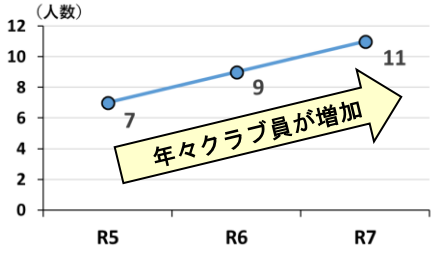
メロンのハダニ対策

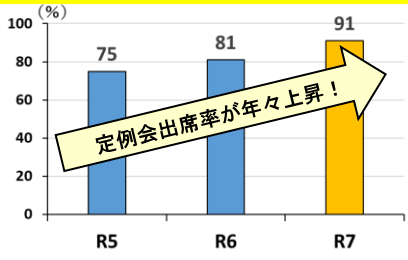
プロジェクト活動を義務化しない
（ハードルが上がって意欲減退）
あくまで営農上の課題解決の延長線

重要!

勉強会は「座談会方式」で実施
（一方的な「伝達式」を回避）
クラブ員「聞きたいことが何でも聞ける」

このような活動の積み重ねにより・・・





クラブ活動が活性化！

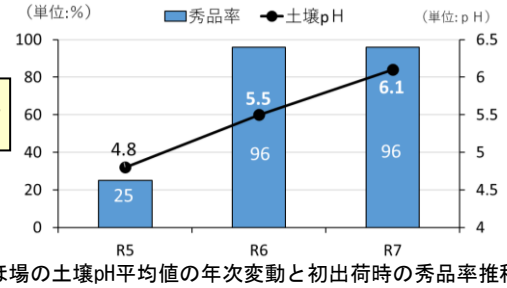
★後志アグリＦプロジェクト発表で最優秀賞受賞→北海道青年農業者会議に２年連続出場！
★Ｒ６北海道青年農業者会議では園芸特産部門で優秀賞を受賞！

共和町新規就農者～農業生産技術・資質の向上～

●深根性緑肥を導入
→２年連続でメロンの半促成作型収穫後に直ちに実践！
●pH矯正を実践
→初期生育が安定し、秀品率が向上！

⇒自らの課題（ほ場の土壌理化学性）を理解し対策を直ちに実践！

土づくりの重要性を実感した！



全ほ場の土壌pH平均値の年次変動と初出荷時の秀品率推移

●座学・青空教室方式による勉強会の実施：目標10回→実績10回（到達度100%）
●水稲・野菜生産技術知識向上支援　　：目標35回→実績50回（到達度143%）

目標達成！

4　今後の活動 **********

・共和町４Ｈクラブ：営農上の課題解決への取り組み、プロジェクト活動支援、定期的な勉強会の開催
・新規就農者：関係機関と連携した栽培管理支援（病害虫対策・土壌改良・適正施肥）